

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア会議で、事業所理念を基に職員全体で話し合い、具体的ケアに繋げている。	法人の基本理念である「地域の方々が、なじみの場所で『その人らしく生き生きと』過ごしていただく支援」を踏まえ、ホーム独自の理念として「ゆったり・一緒に・楽しく・豊かに」をつくり上げている。職員が集まる機会に理念を確認し、お互いに意識づけすることで実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町会に加入し回覧板を回しに行ったり、地域の行事に積極的に参加したり、日常的に散歩や買い物に出掛け、地域の方々と挨拶を交わしたり話したりと触れ合う機会が多い。	地域の夏祭りや行事に参加し交流している。幼稚園児の訪問を受けたり、入居者が雑巾を作りお礼に訪れるなど双方で交流している。中学・高校の職場体験や短大生の実習を積極的に受入れている。夏休みにはラジオ体操の場所として事業所の駐車場を開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は事業所での実践内容を踏まえて運営推進会議などで認知症ケアの啓発に努めている。また、19年度より福祉の人材育成の貢献として中学生のボランティアや職場体験学習、実習生の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からのサービス実施状況等を報告し、それに対して参加メンバーから質問・意見・要望など伺い、課題が上げればそれを検討し今後に活かすように努めている。	利用者代表、家族代表、地域役員、住民代表、市職員、ホーム職員が参加し、2ヶ月毎に開催されている。ホームの活動状況等を議題とした内容で双方向の会議となっている。会議で外部評価結果を報告し、サービス向上のために意見などをいただき、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員が来訪され、職員や利用者との交流を図っている。 運営推進会議に出席していただき、グループホームの実情、ケアの取り組み等を伝えている。	理事長が市と連絡を密に取っている。市から委託を受け北部包括支援センターが4月1日より施設の近くに開所する。市から派遣される介護相談員2名が2～3ヶ月毎に訪問し入居者の相談に乗っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりのその日、その時の状態把握に努め、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。また、会議の場(ミーティング)などで、身体拘束をしていないか、ケアの振り返りを行っている。	職員は拘束に関する研修を受けており拘束のないケアに取り組んでいる。非常階段やエレベーターを使いホームのある4階まで上がるなど、入居者はどこへでも自由に行き来でき、快適で解放的な環境が整えられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員や中途採用者の職員研修を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解に向けた取り組みを行っている。		

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人職員や中途採用者の職員研修を実施し、職員への理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆっくりと時間をとり、丁寧に説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問の解消に努め、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の運営推進会議への出席、市の介護相談員来訪などで、利用者や家族からの意見や要望を伺う機会を作り、そこで出された意見などをフロア会議で話し合い、反映させている。	家族にはきめ細かく入居者の様子を知らせており、何でも言い易い関係作りに心掛けている。ホーム独自のアンケートを実施したことで本人・家族の率直な意見や心情を伺うことができ、運営に反映させている。利用者家族は運営推進会議に交代で参加し要望などを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、意見や考えを聞きだしている。また、会議や話し合いの中で、意見や要望、提案など聞くようにしている。	スタッフ会議が月1回、夜7時半から9時半まで、全職員出席のもと行われ意見を出し合っている。また、入居者の就寝後に理事長と遅番や夜勤の職員とで個別に話す機会も設けられており、業務上の相談等に丁寧に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来て利用者と過ごしたり、個別職員の業務や悩みを把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、それらの研修報告は、毎週のリーダー会議で発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や研修、事例検討などを通して、他事業所との交流を持ち、質の向上に励んでいる。		

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、生活環境や身体状況を把握し、ご本人の不安や思いを理解しようと工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族にホームの様子を見ていただき、ご本人の現在の様子や入居されてからの要望や不安など、直接聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聞き、必要であればケアマネージャーや包括介護支援センターに繋げるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者とともに生活しあう仲間と考え、日々の生活の中で一緒に楽しんだり喜んだりできる場面を作っている。本人の得意なことなどを教えていただく機会が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状況をこまめに報告、相談するとともに、手紙や写真、作品を送ることで、家族との関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院へ行かれたり、年末年始帰省された際の墓参りや、友人、知人の来訪などその方にとっての馴染みの人や場所との関係継続が図れるよう支援している。	複合施設内のクリニックに来た友人やショートステイ・デイサービスを利用している地域の馴染みの知人などと会話を交わしている。年末年始やお盆に自宅に帰り、家族と過ごしなが、縁者や近所の方との旧交を温めている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で一緒に楽しむ時間や同じ趣味を持った方同士で作業できる機会を設けている。 役割活動を通して、よりよい関係作りに努めている。また、ひとりで落ち着ける環境作りにも配慮している。		

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事にお誘いしたり、広報誌や写真の送付など、継続した関係作りが行えるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の場面で見られる言動などから、本人の思いを知るよう努めている。 本人の視点に立って考え、本人に確認できない場合にはご家族などから情報を得ている。	各入居者には担当職員制をとっており、こまめな対応をしている。職員はケアの場面や日常の行動・表情から意向などを汲み取っている。意思表示が難しい時には生活歴などを参考にしながら、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や、生活環境、馴染みの暮らし方など、利用者や家族、知人や友人からお聞きし、把握に努めている。また、他事業所からも利用時の様子など教えてもらえるよう、連携を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの暮らし方や生活リズムを理解するとともに、本人の出来る事に注目し、その方の全体像を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、利用者や家族から思いや意見を聞き、介護計画に反映させている。また、会議や日々のケアの中で、職員の意見交換、モニタリング・カンファレンスを行っている。	入居者や家族から希望を聞きながら担当者が暫定プランを作成し、スタッフ会議で話し合いながら一人ひとりの介護計画を作成している。毎月の評価、3カ月毎の見直しが行われている。現状にそぐわない場合には新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄等身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉や気づきを具体的に記録し、いつでも全職員が確認し、情報を共有して、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院の付き添いや送迎、個別的な買い物の支援など、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられるよう、警察、消防、教育機関、民生委員、ボランティア、近隣のスーパー、薬局、包括支援センター他、運営推進会議などで意見交換し、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、受診は本人、家族の希望に応じて対応しており、いつでも相談できる関係となっている。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。複合施設内1階のクリニックや市内外の病院で受診している。歯科医院、眼科医院なども含め遠方への通院は家族が付き添っている。昼夜を問わず看護師に相談できる体制が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等で気付いた事があれば、速やかに看護職に報告し、適切な医療に繋げている。24時間いつでも看護師に相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、利用者の情報などを医療機関に提出し、職員も頻回に見舞いに伺うようにしている。ご家族とも早期退院に向け、相談や話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意見を伺い、最後の時をより良く送っていただけるよう、医師・看護師・職員で話し合い、連携を図り対応している。開設以来3人の方を施設で家人とともに看取る事例を経験し、終末期の支援をより研鑽する契機となっている。	開設から5年余を経ているが3名の方の看取りが行われている。職員の不安もあったが、当初は入居者の急変もあり併設クリニック院長の死生観についてのお便りや話を聞き、現在はホームで最期を看取ることが何にも勝る経験となっている。家族、医師、職員のチームとしての早期の話し合いや連携の結果、家族にも納得をいただける看取りとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人研修の場で、対応について勉強する機会を設けている。会議の場で、実際に起きた事故の対応など話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練、消火器の使い方などの訓練を行っている。また、地域の協力体制については運営推進会議で協力を呼びかけている。	年2回消防署の指導の下、避難訓練を入居者と一緒に行っている。同時に通報訓練や消火訓練も行っている。災害に備えての飲料水や介護用品なども備えている。	事前に告知したり、地区の防災の日に公開する等、地域の人達に関心を持っていただけるような工夫を期待したい。

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重し、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい声掛けをするように努めている。また、利用者の尊厳や個人情報保護の理解の向上に努めている。	職員は人生の先輩として尊敬する姿勢を持って接している。入居者一人ひとりの生活歴を理解し、言葉がけに配慮しながら、人格を尊重したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に合わせて声を掛け、些細なことでも自分で決める場面をつくっている。表現が困難な方に対しては、表情や行動などから本人の意思を汲み取り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、一人ひとりのペースを大切に、その日その時の気持ちを尊重し、その人らしく生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が好きな色の服や髪型、毎日のお化粧品等、本人の気持ちに添った支援を心がけている。また、馴染みの美容院へ出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫された野菜などで煮物や漬物を調理したり、利用者の馴染みの料理を職員と一緒に準備から片付けまで行う中で個々の力を活かしながら楽しみとなるよう努めている。	食事の準備や後片付けは出来る範囲で職員と一緒に楽しみながら行っている。食事はゆっくりと時間をかけ食べており、各テーブル毎に職員も加わり、和やかな雰囲気であった。家族の面会時、家族が昼食を食べたのかどうか気にする入居者の様子が微笑ましく感じられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を使用し、水分量・食事量の把握が出来るように対応している。また、個々の嗜好に合わせた食事が提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、一人ひとりの能力に応じた対応を行っている。特に就寝前の口腔ケアは、その重要性の理解を職員間で共有している。		

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握する事で、その方にあったトイレ誘導を行っている。自尊心に配慮し、トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ・パッド類も本人に合わせて検討している。	排泄チェック表を参考にしながら一人ひとりに併せたケアを行っている。入居者との係りの中で表情や行動を見ながらさりげない誘導が行われていた。自尊心を大切にしながら自立にむけて本人本位の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、繊維質の多い食材や乳製品などを食事に取り入れるなどして、出来るだけ自然排便できるように工夫をしている。また、生活の中で体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望を確認し入浴していただいている。入浴を拒む利用者に対しては、言葉かけや対応を工夫し、利用者一人ひとりに合わせた入浴を心掛けている。	入浴日を選択することができ、入居者の好きな時間に入浴している。お風呂嫌いな方には声かけに工夫し気持ちを汲みながら入浴して頂いてるが、一旦入ってしまうと気持ちよく、喜んで入浴していただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整え夜間の安眠に繋げられるように心掛けている。また、眠れない方には話をしたり温かい飲み物を用意したり足浴を行う等の対応をしている。環境面のアセスメントも適宜行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者別に、服薬ファイルを作成し全職員に分かるよう徹底している。服薬は個別に対応し内服できているか確認している。処方の変更があった場合は個人記録・申し送りノートに記録し状態変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事柄を活かせる場面作り、役割など生活に定着している。畑仕事、漬物、縫い物、編み物など利用者の経験や知恵を発揮する場面を多く作っており、利用者と相談しながら外出やレクの機会も作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や利用者の状態などに応じ、一人ひとりが季節を感じ、外出を楽しめるように日常的に散歩、買い物、ドライブ、外食などに掛けている。	昼食後の散歩は日課となっている。お天気の良い時には足を伸ばし、周囲の山々を見渡し四季を感じている。お花見や買い物、ドライブにも出かけている。外食も入居者の楽しみの一つとなっている。ホームはバリアフリーになっているので筋力低下を防ぐために階段を利用した生活リハビリにも取り組んでいる。生活リハビリの導入によりつまづきや転倒が減ったと伺った。	

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を手元に持っている利用者もおり、買い物に行った際、利用者が直接支払ったりする事で、安心感や満足感が得られるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で本人が電話をかけたり、家族からの電話を取り次いだり、プライバシーに配慮しながら個別に対応している。 家族や知人と、手紙や年賀状などの交換が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとっての馴染みのもの、生活感や季節感のあるものを配置し、家庭的な雰囲気作りに努め、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	ホームの中には沢山の観葉植物や欄の花が置かれ、水遣りも入居者と職員が共同で行っている。色鮮やかな花の色と芳しい香りが漂い、ホーム内は一足早い春の雰囲気といっばいであった。ホームのある4階からの眺望も良く、四季折々の自然を眼前にし、心身ともに癒される環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには畳スペースやソファがあり、廊下や屋上には椅子を置き、ひとりで過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンスや馴染みの品々が持ち込まれ、利用者一人ひとりの居心地の良い空間作りに勤めている。	広めの居室内には使い慣れた家具が置かれ、家族の写真などもあり、過ごされた時を懐かしく感じることができる。入居者それぞれの個性が感じられる、居心地の良い空間づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて環境を整えている。失敗が生じた時は、失敗の原因を職員間で話し合い、本人の分かる力を見出し、自立にむけた環境作りに勤めている。		